

来訪者管理戦略に基づく実施計画書（骨子案）

来訪者管理戦略（2016年（平成28年）1月 ユネスコ世界遺産センターへ提出）

- 来訪者管理の目標として「望ましい富士登山の在り方」（登山の文化的伝統の継承、展望景観の維持、登山の安全性・快適性の確保）を定義。
- 「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、指標を設け^{*1}（PLAN）対策を実施し（DO）2015年（平成27年）を起点として、概ね5年ごとに指標・対策の評価（CHECK）・見直し（ACTION）を実施。

^{*1} 2015年（平成27年）～2017年（平成29年）の3年間の調査研究結果に基づき、指標・水準、対策等を示した実施計画を策定。

実施計画書

1 調査研究結果の概要

登山者の意識	登山者の動態
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「人の多さが許容できない」「危険を感じた」割合は登山者数に比例して増加する傾向。 ➤ 「総合満足度」「神聖さを感じた」等は登山者数に関係なく一定割合存在。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 特定の日（週末・お盆）・時間帯（御来光前後）・箇所（吉田・須走口合流地点（本八合目）より上方及び富士宮口山頂付近）に登山者が集中し、著しい混雑が発生。

2 指標・水準の設定

(1) 選定基準

指標	「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できること。 など
水準	定量的な指標は、現状値から10%程度の改善を目指す。 など

(2) 指標・水準の設定（抜粋）

その他の指標・水準とその詳細は「別表」参照

望ましい富士登山の在り方	指標	水準
登山の文化的伝統の継承	富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	90%以上
展望景観の維持	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	非調和的要素が予見又は発見されない
登山の安全性・快適性の確保	夏山期間を通じて「著しい混雑が発生する登山者数/日」を超えた日数	対前年減

3 著しい混雑が発生する登山者数の目安（登山者数に関する指標・水準） 詳細は「資料3-1」参照

- 「特定の日・時間帯・箇所における著しい混雑」が「登山の安全性・快適性」を損ねていることから、当面、「著しい混雑」の緩和を目指す。
- 調査結果から、登山道ごとに「著しい混雑」を定量的に定義する。
- 著しい混雑が発生する目安は、吉田口 3,500～4,500人/日程度、富士宮口 1,500～2,500人/日程度と見込まれる。（さらに調査結果の分析を加え、検証を行う。）
- 指標には、著しい渋滞が発生する目安となる登山者数を超えた日数を設定し、水準は、「緩和」の観点から、前年よりも超過日数を減らすことを目標とする。
- 御殿場口は現状では目立った混雑が発生しないため、指標・水準は設定しない。須走口は、吉田口と合流するまで（本八合目より下）は目立った混雑が発生せず、吉田口に比べて登山者が少ないことから、指標・水準は設定しない。

4 対策の実施

- 登山者の平準化や安全確保のための情報提供等を中心に実施。

山麓からの登山の推奨^{*2} [案内所等の運営 など] 	山麓の構成資産の周遊促進^{*2} [体験ツアーの実施 など] 	安全誘導員等の配置^{*3} [登山者の誘導 など] 
宿泊を伴わない夜間登山の抑制^{*3} [シャトルバスの運行時間の見直し など] 	マイカー規制期間の見直し^{*3} [マイカー規制の継続] 	平準化に向けた情報提供^{*3} [混雑予想カレンダー など] 

^{*2} 主に「登山の文化的伝統の継承」の実現に資する対策

^{*3} 主に「登山の安全性・快適性の確保」の実現に資する対策

5 モニタリングの実施

- 機器や人件費に過度な経費を必要とせず、継続的に実施可能な方法を採用。

モニタリング方法	周期
アンケート調査、登山者数調査、現地職員による記録、法的手続きの届出件数、景観変化の観察	毎年
登山者動態調査	概ね5年

6 計画期間及び推進体制

- 「望ましい富士登山の在り方」の実現を長期目標としつつ、2015年（平成27年）を起点とした5年間を（短期）計画期間とする。
- 最終年に指標・水準の達成状況を評価するとともに、次期計画期間の指標・水準等を決定。
- 特に、著しい混雑が緩和された場合には、登山者数に着目し続けるのではなく、危険・不満を感じない等の登山者意識に着目した指標等を設定するなど、「登山の利用体験の質の向上」を図る。
- 富士山世界文化遺産協議会が実施状況を把握し、評価・見直しを実施。

別表 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた指標

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	現状値			水準（H31の目標値）	主な対策	モニタリング方法
視点	区分			H27	H28	H29			
の文化的伝統の継承	十七世紀以来の登拝に起源する登山	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	全体	70.4%	68.2%		80%以上	・夜間登山の自粛要請 ・山小屋等における文化的伝統・価値の普及啓発	登山者アンケート [分母は山頂で御来光を拝んだ登山者数]
		特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	吉田	11.9%	13.7%	12.4%	15%以上	・山麓からの登山の推奨 (例：情報発信、受入環境の整備等)	山麓からの登山者数カウント [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
		山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	全体	32.9%	39.0%		50%以上	・山麓の構成資産の理解の促進、法専門の誘導	登山者アンケート [以前から知っていた/今回の登山・訪問で知った人の割合]
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	83.0%	88.3%		90%以上	・山小屋等における文化的伝統・価値の普及啓発	登山者アンケート [感じた/少し感じた人の割合]
好な展望景観の維持	登山道及び山頂付近の良	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	全体	-	-		非調和的要素が予見又は発見されない	・人工構造物の修景手法の検討 ・現地パトロール及び指導の実施 ・外来植物の侵入防止対策	富士山レンジャー等による視認 文化財保護法・自然公園法の現状変更申請
		浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	全体	-	-		負の影響が予見又は確認されない		各登山口五合目から山体を観察
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	-	26.8%		15%以下	・登山口における情報提供及び登山マナーの普及啓発	登山者アンケート
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	1件	0件		0件	・現地パトロール及び指導の実施 ・清掃活動・ゴミ対策の実施	特別名勝・史跡富士山に係る文化財き損届（五合目以上）
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	下山道間違いの対応人数	須走	981人	944人		対H27比2割減	・各登山口における情報提供 ・安全誘導員等の配置	富士山ナビゲータ対応記録[吉田口から登山し、須走口に下山した人]
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	-	19.1%		15%以下	・更新期を迎えるトイレの管理手法等の検討	登山者アンケート [とても不満/やや不満の割合] 現状値はトイレへの不満
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日 ^{*1} を超えた日数	吉田 ^{*2} 富士宮 ^{*2} 御殿場 須走	4日 3日 - -	4日 2日 - -	5日 4日 - -	対前年減 - -	・混雑情報の提供 ・週末の夜間登山者 ^{*3} の効果的なコントロール手法の検討	八合目登山者数カウンター 登山者アンケート [混雑の許容度、危険を感じた割合等]
	^{*1} 吉田口：3,500～4,500人/日 富士宮口：1,500～2,500人/日						^{*3} 山頂御来光を目指す非宿泊登山者		

^{*2} 現状値は、吉田口が4,000人/日、富士宮口が2,000人/日を超えた日数を記載